

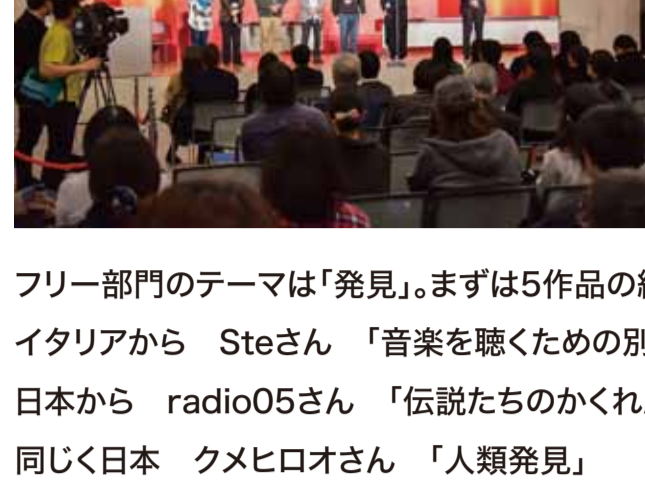
世界まんがセンバツ

全国に先駆けてまんが王国を宣言した高知県では、まんが甲子園に続く新たな人材育成の取り組みとして、ComicWalker、ニコニコ漫画とコラボし、世界中から1枚まんがをインターネットで募集するコンテスト「世界まんがセンバツ」を開催しました。世界13の国と地域から201作品が集まり、予選を勝ち抜いたフリー部門5作品、高校生部門10作品の各頂点を決める決勝審査が、3月2日(土)に開催した「第5回全国漫画家大会議inまんが王国・土佐」のステージ上で行われました。

登壇したのは、審査員の山田ゴロ先生、あおきてつお先生、内藤泰弘先生、姫川明輝先生。予選審査を行ったくさかり樹先生、まんが王国・土佐推進協議会会長の尾崎正直高知県知事。そして、「審査員のお一人である藤島康介先生は、たたいま会場に向かっています」と司会の土佐かつおさんよりアナウンスがありました。

まずは、尾崎会長が、第1回世界まんがセンバツ決勝審査大会の開会を宣言。
「夏のまんが甲子園は国際化し、台湾や韓国の学生さんも参加してくれる世界的イベントです。日本の漫画は世界に通用するという実感があります。今回、デジタルの力を借りて、全世界に広めていくことにしました！ぶっつけ本番、生の決勝審査をやっていただきます。どうい作品がどうい理由で優れているか、プロの視点を生近に感じることができます。まんがを志すみなさん、まんがを心から楽しみたいと思っているみなさん、この貴重な機会をいかしてください！」とあいさつしました。

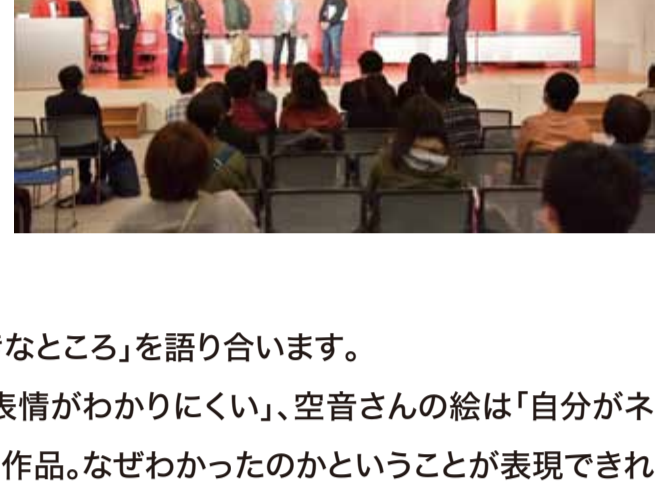
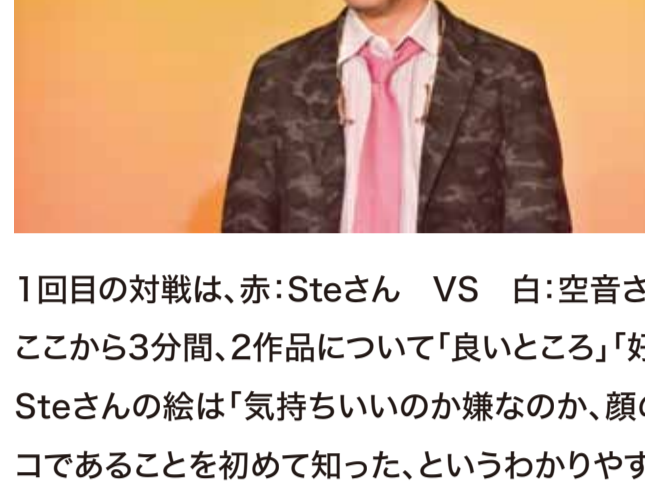
予選審査に参加したくさかり樹先生から一言。
「この企画すべるんちゃう？ホントに集まるんかな・・・と心配でした。でも、こんなに集まって、びっくりして、感動しました！世界をまたぐボーダレスなまんがの世界。素晴らしいイベントが始まったと実感しています。この後の決勝審査をめちゃくちゃ楽しみにしています！」。



フリー部門のテーマは「発見」。まずは5作品の紹介。
イタリアから Steさん 「音楽を聴くための別の方法」
日本から radio05さん 「伝説たちのかくれんぼ」
同じく日本 クメヒロオさん 「人類発見」
次も日本から 晴好さん 「探検隊」
最後も日本から 空音さん 「はじめまして、自分」

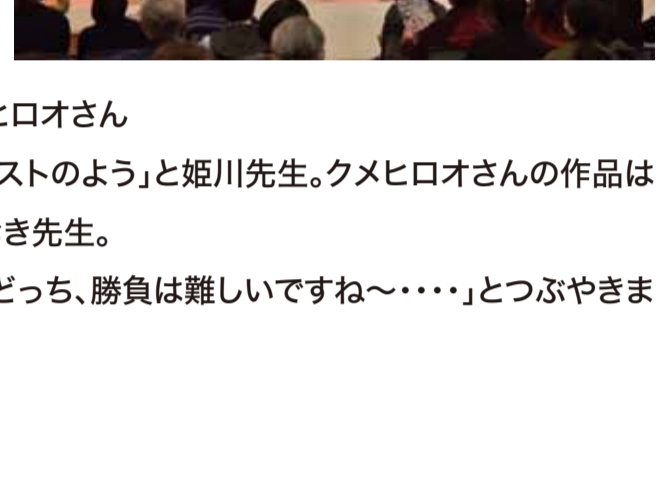
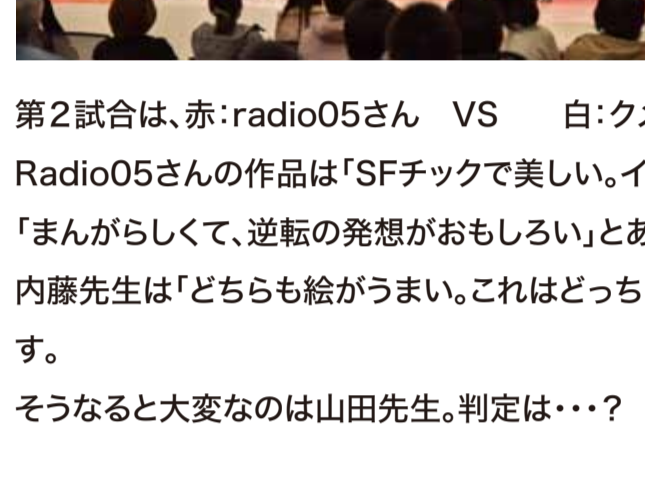
というところで、藤島康介先生が到着し、ステージに登場。会場は拍手喝采！

最優秀作品を決めるのは、トーナメント方式。
まずはくじ引きで組み合わせを決め、対戦する2つの作品がスクリーンに映し出されたところで、審査員の先生方がそれぞれ講評を述べるスタイル。
その後、審査委員長の山田ゴロ先生が勝敗をジャッジします。



1回目の対戦は、赤:Steさん VS 白:空音さん
ここから3分間、2作品について「良いところ」「好きなところ」を語り合います。
Steさんの絵は「気持ちいいの嫌なのか、顔の表情がわかりにくい」、空音さんの絵は「自分がネコであることを初めて知った、というわかりやすい作品。なぜわかったのかということが表現できればなおもしろい」というお話がありました。
山田ゴロ先生の判定は・・・？

白!!!!!!

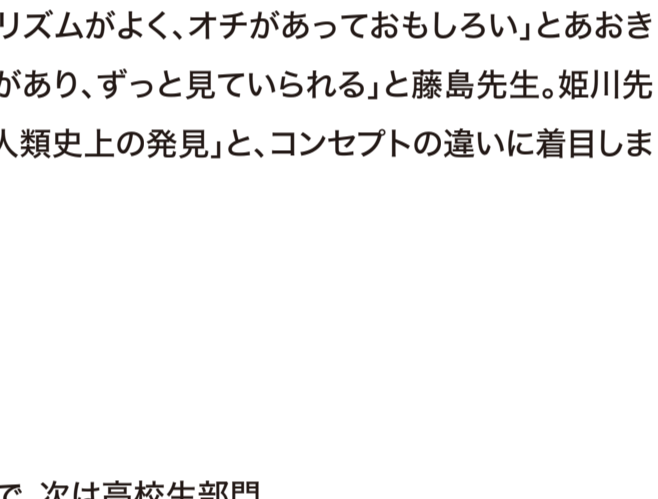
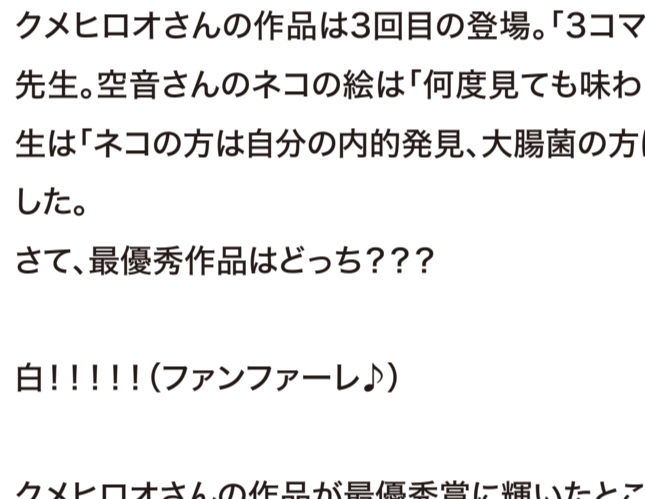


第2試合は、赤:radio05さん VS 白:クメヒロオさん
Radio05さんの作品は「SFチックで美しい。イラストのよう」と姫川先生。クメヒロオさんの作品は「まんがらしくて、逆転の発想がおもしろい」とあおき先生。
内藤先生は「どちらも絵がうまい。これはどっちもどっち、勝負は難しいですね・・・」とつぶやきます。
そうなんと大変なのは山田先生。判定は・・・？

白!!!!!!

第3試合は、赤:クメヒロオさん VS 白:晴好さん
今回初参戦の晴好さんの作品について、内藤先生は「タン・タン・ギャース!というリズムがあって楽しい」、藤島先生は「1ページできれいにまとまっていて、力がある」との意見が出ました。「比べられない個性がある」「どっちともいえない」という意見がある中、あおき先生は「晴好さんの作品はテッサンがとれているし、絵がうまい。このまま漫画家の道を進めばいいと思う」と絶賛しました。クメヒロオさんの作品も「味がある」「線がいい」とやはり評価は高い様子。
判定が難しいのか、旗を握ったまま動かない山田先生。

赤!!!!!!



次はいよいよ最終戦、赤:空音さん VS 白:クメヒロオさん
クメヒロオさんの作品は3回目の登場。「3コマのリズムがよく、オチがあっておもしろい」とあおき先生。空音さんのネコの絵は「何度見ても味わいがあり、ずっと見ていられる」と藤島先生。姫川先生は「ネコの方は自分の内的発見、大腸菌の方は人類史上の発見」と、コンセプトの違いに着目しました。
さて、最優秀作品はどっち???

白!!!!!! (ファンファーレ♪)

クメヒロオさんの作品が最優秀賞に輝いたところで、次は高校生部門。
高校生部門は10作品。1次審査で5作品に絞ります。
審査員が一人5点・4点・3点・2点・1点の札を持ち、作品に点数をつけていきます。
2次審査はトーナメントで、1次審査の得点によってトーナメントの対戦組み合わせが決まり、一番得点の高い作品がシード権を得ます。

高校生部門のテーマは「変身」、予選を勝ち抜いた10作品はこちら。

韓国/イム・スンヨンさん「チキン」、イ・ジョンさん「プリンスフロッグ」、ユン・イナさん「PANDA or ADNAP」、キム・ガへさん「A modern transformation」。
日本/A.(ヌメサン)さん「ご注文は天津飯でよろしかったですっけ?」、おだちゃんさん「変身」、夏ノ上さん「変身」、酒のツمامミさん「変身」、山田さん「変身」、紅田莉代さん「恩返し」

1次審査の結果、最高得点は山田さんの17点で、シード権を獲得。

2次審査の第1試合は、赤:ユン・イナさん VS キム・ガへさん
あおき先生は、「ユン・イナさんの作品は、高校生の作品と思えないほど画力が高い。絵に対する情熱を感じる」と驚いた様子。キム・ガへさんの作品には、内藤先生「セリフがないけれど伝わる」と内藤先生。藤島先生は、「最後のコマにもっと激しい変身を期待してしまっただけ」と評しました。
この勝負は赤、ユン・イナさんの勝ち!

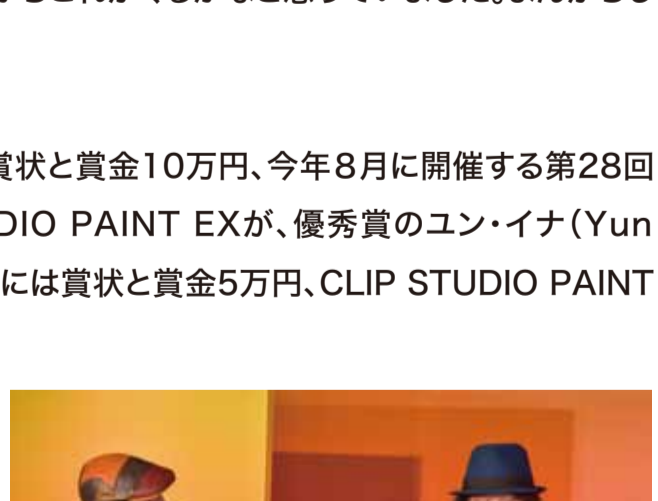
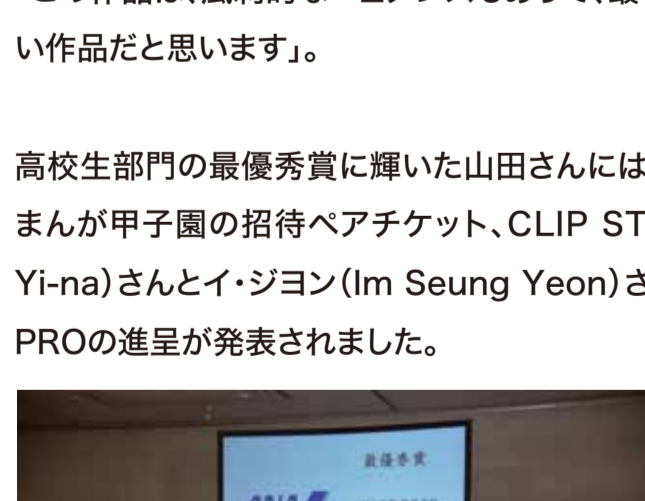
第2試合は、赤:イ・ジョンさん VS 白:紅田莉代さん
「白の作品は最後の一言だけのオチ、赤はじっと見てると笑えてくる最後をひっくり返すようなオチ。どちらもおもしろいですね」と姫川先生。赤の作品に対しては、藤島先生が「これから話を広げられそう」と言い、あおき先生は「人間のお姫様は描かない方がよかったかも」とシンプルなおもしろい場合もあることを示唆しました。
結果は、赤のイ・ジョンさんの勝利!

第3試合は、赤:イ・ジョンさん VS 白:ユン・イナさん
「白のパンダの方はたくさん表情があって楽しいなと思っていて、赤の方は深いなと思っています。このカエルの王子の価値観はどうなっているんだ?と考えさせられる作品ですね」と内藤先生。「それに、このカエルの絵はとってもうまく描けていますね」と姫川先生も感心した様子です。
韓国の高校生対決、勝負はユン・イナさんの勝ち!

最終選は、赤:山田さん VS 白:ユン・イナさん

初めて登場する山田さんの作品のシュールさが、審査員の心を掴みます。
ここまで勝ち上がってきたユン・イナさんの作品もちろん評価が高く、山田先生がルールの変更を提案。審査員それぞれ赤白の旗を揚げてジャッジし、合計点で最優秀賞を決めることとなりました。
山田さんの作品について、内藤先生は「キレの良さとすさまじいシュールさがいい」。あおき先生は「ウサギの着ぐるみのデキが悪く、中身がかわいい。これがまたおもしろい」。
このウサギ対パンダの戦い、勝負は・・・

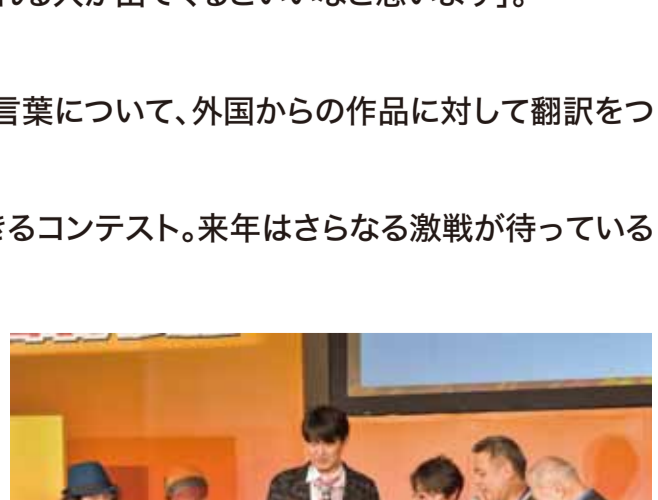
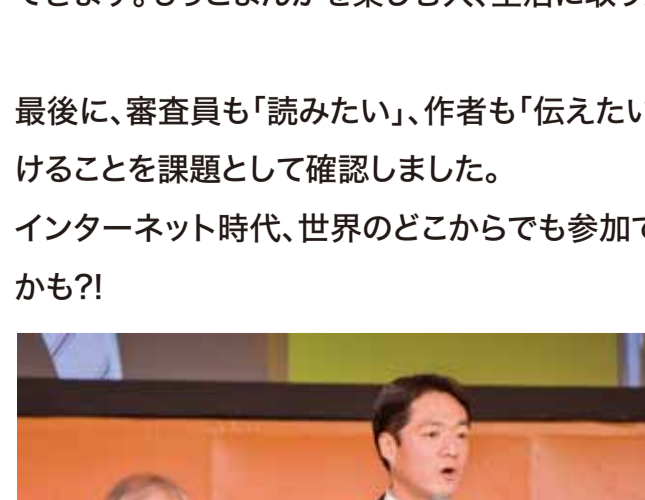
3対2で、山田さんが最優秀賞に輝きました!



表彰式では、フリー部門の最優秀賞に輝いたクメヒロオさんに、賞状と高知県特産品3万円分、まんが製作ソフトCLIP STUDIO PAINT EX、ANAの航空券の進呈が発表されました。

フリー部門の講評を、姫川明輝先生より。
「コマ漫画は、1枚の中で何をやってもいい。テンポの軽妙さと、大腸菌でもキャラクターにできるのがまんがのおもしろいところです。
「この作品は、風刺的なニュアンスもあって、最初からこれかくなと思っていました。まんがらしい作品だと思います」。

高校生部門の最優秀賞に輝いた山田さんには、賞状と賞金10万円、今年8月に開催する第28回まんが甲子園の招待ペアチケット、CLIP STUDIO PAINT EXが、優秀賞のユン・イナ(Yun Yi-na)さんとイ・ジョン(Im Seung Yeon)さんには賞状と賞金5万円、CLIP STUDIO PAINT PROの進呈が発表されました。



高校生の部の講評を、内藤泰弘先生より。
「みなさん絵が描ける!15-17歳でここまで描けるとは。インターネットでレベルの高いまんがを見て育っている人たちで、初手からうまいと感じました。その中で、山田さんの作品には抜きん出たシュールさがありました。来年からはレベルが上がっちゃうので、すごいことになると思います」。
続いて藤島康介先生
「自分が高校生の時にはこれだけ描けなかった。全体的なレベルの高さと、若手の追い上げる力を感じました」。
世界まんがセンバツの総評を、山田ゴロ先生より。
「もともとまんがは、いろいろな個性ある人たちが描くもので、優劣を比べるものではありません。しかし、テーマを設けることで競えるツールに変わりました。
今回入賞できなかった人、まんがは絵と文でできていて、そこにストーリーがあります。若い人は絵がうまいので、絵を描くことだけに力を使い過ぎているのではと思う部分があります。これからは絵とストーリーのバランスを考えて描くといいと思います。
今回「世界」と冠しているように、デジタルを使うと自分で作品を発表できるし、コンテストにも参加できます。もっとまんがを楽しむ人、生活に取り入れる人が出てくるといいなと思います」。
最後に、審査員も「読みたい」、作者も「伝えたい」言葉について、外国からの作品に対して翻訳をつけることを課題として確認しました。
インターネット時代、世界のどこからでも参加できるコンテスト。来年はさらなる激戦が待っているかも?!

